

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2016

1

No.779

P2 年頭所感

P5 特集

「ストップ・ザ・無縁社会」絆つなげる明日へつながる③
災害時の支援体制強化に向けて

P8 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ!全県キャンペーン

P9 地域を駆ける!ワーカー物語

「心の和」が循環する町を目指して
太子町社会福祉協議会
稲村 清香さん

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション

1月15~21日は
「防災とボランティア週間」だよ!



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

姫路市

はりまのくにそうしや いたてひょうごじんじや
播磨国総社 射楯兵主神社

年頭所感

新年あけましておめでとうございます

兵庫創生に挑む

兵庫県知事 井戸敏三



新年あけましておめでとうございます。国内では急速な人口減少・少子高齢化、世界では地域紛争が激化する一方で、国境を超えた経済の一体化が進展しています。内外とも変化の激しい今、兵庫においても、新たな発展の枠組みが求められています。

昨秋、本県は、五年間の地域創生戦略を策定しました。今後五十年で百万人以上の人口減少が見込まれます。少子化と高齢化も年々進行します。その中でも兵庫が活力を保ち、将来への希望を持てる地域を目指さねばなりません。それだけに、地域の多様な資源を最大限に活用して、ふるさと兵庫を愛する人々とともに、「安全安心で元氣なふるさと兵庫」を創らねばなりません。

第一は、安全安心の確保。安全こそが県民生活と社会経済活動の基です。ハード・ソフト両面から防災・減災対策を進め、危機に強い地域を創ります。また、医療、福祉の更なる充実により、安心して暮らし続けられる体制を整えます。

第二は、多彩な人材が活躍できる社会づくり。女性、若者、高齢者、障害者の一層の社会参加を促します。そのためには、子育て環境の整備や、個性を伸ばす教育に努め、県民一人ひとりの自己実現を目指します。

第三は、活力あふれる地域づくり。科学技術基盤を活かした新産業の創出、大都市近郊を活かす農林水産業の確立など、産業の競争力強化に取り組みます。また、高速道路網の整備、広域観光圏の形成などにより、内外との交流の拡大につなげます。

未来は、私たちの手で変えられる。

そのため、戦略では、自然増や社会増対策を行うとともに、人口が減る中でも実質的な経済成長を実現するという目標を掲げました。地域、地域の持つ多様な資源を活かしつつ、兵庫としてのまとまりを発揮する「多様性と連携」を基本に、皆さんと共に挑みます。「兵庫創生」に向けて、さあスタートを切りましょう。

各地域資源を活かし連携し

めざすは兵庫の新しい展開

新たな時代の地域福祉の発展に向けて

兵庫県社会福祉協議会 会長 武田政義



新年あけましておめでとうございます。県民の皆さまにおかれましては、日頃より地域福祉の推進にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。わが国では、地域包括ケアシステムの構築を目指して介護保険制度が改正されるとともに、生活困窮者自立支援法など地域の生活・福祉課題に対応する新たな制度が施行されています。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応していくため、社会福祉法人制度改革や、全世代・全対象型の新しい地域包括支援体制の検討も進められており、私たち福祉関係者を取り巻く環境は激動の中にあります。

本会ではこれまで、「県社協2015年計画」に基づき、お互いの存在を「認め合い」、「ともにつながり」、「支え合う」、「みんなでつくるひょうごの福祉」を目指し、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンをはじめとするさまざまな事業を展開しています。

現在は、今後5カ年の方向性を定める次期中期計画「2020年計画」の策定を進めており、平成28年度はその初年度となります。同計画に基づき、本県の地域福祉の発展に向けて一層努めてまいりますので、皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

共同募金70年の節目にあたり

兵庫県共同募金会 会長 菅原 巖



新年あけましておめでとうございます。県民の皆さまにおかれましては、常日頃より赤い羽根共同募金運動に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。平成27年は赤い羽根ひょうご運動スローガン「やさしさが 必ずとどく 赤い羽根」のもと、募金目標額を7億1411万2000円として募金運動に取り組んでまいりました。

本年は、共同募金運動が始まり70年目を迎える記念すべき年となります。70年を節目として新たな運動スローガンを定めるほか、兵庫県社会福祉大会の共催、記念顕彰事業、記念誌や広報資料の作成などを実施し、県民の皆さまの幅広い参画とご協力を得ながら、共同募金運動をさらに推し進めてまいれる所存です。

共同募金では、さまざまな民間の社会福祉活動や災害時のボランティアセンターの運営等を資金面で支援しております。皆さまのあたたかいお気持ちやお力添えが、つながり支え合う福祉のまちづくりにならずとどくよう、努めてまいりますので、本年もなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

役員一同

- 会長 武田 政義
- 副会長 谷 勝雄
(相生市社会福祉協議会会長)
婦木 治
(県社会福祉法人経営者協議会会長)
加納 多恵子
(県民生委員児童委員連合会会長)
中村 三郎
(神戸市社会福祉協議会理事長)
- 常務理事 永守 研吾
- 理事 福田 昌弘
(三田市社会福祉協議会会長)
吉村 進吾
(加東市社会福祉協議会会長)
小林 哲夫
(養父市社会福祉協議会会長)
長井 克己
(丹波市社会福祉協議会会長)
谷口 啓一
(南あわじ市社会福祉協議会会長)
亀田 龍昇
(県民生委員児童委員連合会 副会長)

- 高田 實
(神戸市民生委員児童委員協議会理事長)
- 小林 公正
(県保育協会 会長)
- 石田 文徳
(県老人福祉事業協会 会長)
- 黒川 恭眞
(神戸市社会福祉協議会施設部会長)
- 水野 雄二
(神戸YMCA 顧問)
- 岡田 和隆
(県身体障害者福祉協会理事長)
- 山添 令子
(生活協同組合コープこうべ 常務理事)
- 金澤 和夫
(兵庫県 副知事)
- 小西 康生
(神戸大学 名誉教授)
- 松澤 賢治
(元流通科学大学 教授)
- 薦野 信
(県社会福祉協議会 常務理事)
- 監事 稲野 廣
(宝塚市社会福祉協議会 理事長)
光岡 研士
(県知的障害者施設協会 副会長)
川本 幹雄
(公認会計士)



「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる③

災害時の 支援体制強化に向けて

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から間もなく5年。被災地はそれぞれの課題を抱えつつも、復興への取り組みが進んでいる。

今回の特集では、災害ボランティア活動を中心に被災地支援の取り組みと被災者の現状を報告するとともに、災害ボランティアセンターなど災害時の支援体制強化に向けて求められる取り組みをお伝えする。



震災は被災地の暮らしを大きく変えた

東日本大震災におけるボランティア活動

東日本大震災による被害
平成23年3月11日14時46分に宮城県三陸沖で発生した地震は、マグニチュード9.0を記録し、東日本各地に甚大な被害をもたらした。地震や津波による被害に加え、福島第一原発事故により多くの方々が自宅からの避難を余儀なくされるなど、未曾有の大災害は多くの人々の日常を覆した。

震災から5年が経過しようとしている現在、今もなお避難者は19万

人近く上っているが、被災地では復興に向けた歩みが着実に進められている。

ボランティアによる支援

本会では、東日本大震災発災直後から、全国レベルでの救援活動が必要との認識のもと、3月12日に「東日本大震災」災害救援本部を設置。阪神・淡路大震災の経験・教訓を踏まえた対応に努めた。3月から10月にかけては近畿ブロックの各社協と連携して、被災地の災害ボランティアセンターへの職員派遣を継続して行った。

また、阪神・淡路大震災や県内で発生した豪雨災害で災害ボランティアに支えられた経験を持つ多くの県民が、「被災地のためにできることを」という思いのもとで、ひょうごボランティアプラザ(以下、「プラザ」)が実施するボランティアバスに参加した。3月18日の第1次先遣隊を皮切りに、平成27年11月末までの間、プラザの主催や高校、大学、各種団体との協働によるバスで延べ6983人、2933台のボランティアが参加した。

謹賀新年

兵庫県福祉センター 入居団体一同

一般社団法人 兵庫県老人福祉事業協会	会長 石田 文徳
一般社団法人 兵庫県介護老人保健施設協会	会長 森村 安史
一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会	会長 蓬萊 和裕
公益社団法人 兵庫県保育協会	会長 小林 公正
兵庫県児童養護連絡協議会	会長 吉田 隆三
兵庫県乳児院連盟	会長 八木 健
兵庫県セルプセンター	理事長 山崎 玲輔
公益財団法人 兵庫県身体障害者福祉協会	理事長 岡田 和隆
社会福祉法人 兵庫県視覚障害者福祉協会	会長 岩崎 敏彦
一般財団法人 兵庫県肢体不自由児者協会	理事長 鄭 正秀
公益社団法人 兵庫県精神福祉家族会連合会	会長 米 靖弘
公益財団法人 兵庫県手をつなぐ育成会	理事長 小原 冷子
一般社団法人 兵庫県子ども会連合会	理事長 揖場 攝
一般社団法人 兵庫県社会福祉士会	会長 岡本 和久
一般社団法人 兵庫県介護福祉士会	会長 安達 眞理子
一般社団法人 兵庫県介護支援専門員協会	会長 垣内 達也
一般社団法人 兵庫県音楽療法士会	理事長 松崎 聡子

兵庫県社会福祉協議会では、県民・福祉関係者の皆さまからのさまざまな相談を受け付けています。

社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会

(神戸市中央区坂口通2-1-1) TEL 078-242-4633(代表)
※土・祝日・年末年始は休業 URL <http://www.hyogo-wel.or.jp/>

福祉の仕事・資格に関するご相談は
福祉人材センター
TEL 078-271-3881

65歳未満で発症する認知症についての本人・家族の生活相談は
ひょうご若年性認知症生活支援相談センター
TEL 078-242-0601(9:00~12:00、13:00~16:00)

福祉サービスの苦情に関するご相談は
福祉サービス運営適正化委員会
TEL 078-242-6868(10:00~16:00)

ボランティア活動に関するご相談は
ひょうごボランティアプラザ
(神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー6階)
TEL 078-360-8845(月~金曜9:00~19:00、土曜9:00~17:00)
※日曜、祝日、GW、盆、年末年始は休館
※NPO相談は要予約(月曜11:00~19:00、土曜9:00~17:00)

福祉職場の人材育成に関するご相談は
兵庫県社会福祉研修所
(神戸市中央区中山手通6-1-30) TEL 078-367-3001
介護支援専門員研修専用 TEL 078-367-5211

2015年福祉のできごと

- 1~2月 阪神・淡路大震災から20年にあたり、「ひょうご震災20年ボランティア活動フォーラム」を開催
- 3月 「これからの『災害ボランティアセンター』を考える全国フォーラム」を開催
- 3月 「兵庫県老人福祉計画(第6期介護保険事業支援計画)」
- 3月 「ひょうご障害者福祉計画」「ひょうご子ども子育て未来プラン」の策定
- 4月 「生活困窮者自立支援法、改正介護保険法の施行」
- 8月 「平成28年度兵庫県の社会福祉政策への提言」を県知事等に提出
- 9月 桂米團治氏を招き「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン総会・講演会を開催
- 9月 台風第18号により、栃木県、茨城県、宮城県を中心に広範囲の浸水被害などが発生
- 10月 「希望出生率1.8の実現」「介護離職ゼロ」などを柱とする「億総活躍国民会議」の設置
- 三木市において第64回兵庫県社会福祉大会を開催

2016年に予定される主な制度改正

障害者差別解消法、改正障害者雇用促進法の施行
社会福祉法の改正



さらに、平成23年4月から5月にかけて、東北自動車道泉パークینگに「東北自動車道ボランティアインフォメーションセンター」を設置。発災直後の混乱期に、本県の企業やNPO、地元東北大学やNPOの協力を得て、広域的な現地ボランティア活動案内所を運営した。26日間に延べ2017人・2927件の利用があった。この経験が生かされ、現在は常磐自動車道守谷SA(上り)が防災拠点として整備されている。

現在では、ボランティアのニーズは、発災直後のがれき処理や土砂除去などから、農地復興・イベント支援・傾聴・交流活動などのソフト面の



仮設住宅での交流活動の様子(気仙沼市)

支援が中心になっている。平成27年度は県立高校から東北へのボランティアバスに参加する生徒が過去最多の約680人となる見込みであり、若い力に多いに期待しつつ、被災地のことを忘れずに共に歩むという姿勢で今後も支援を続けていきたい。

被災地の現状と今後の課題

震災から5年を迎える東北の被災地では、多くの地区で復興に向けた取り組みが本格化しており、被災された方々も新たなステージに移りつつあるが、いまだ多くの人々が仮設住宅などで不自由な暮らしを強いられているのが現状である。

プラザでは、これまで宮城県名取市の「愛島東部団地仮設住宅」「箱塚校団地仮設住宅」、東松島市の「市営小松南住宅」への継続的な支援を行ってきた。ここでは、全ての住民が大規模な被害地域に居住していた方々であり、地震により家屋が倒壊し、津波などにより生活基盤を失った。



継続的なボランティアバスによる被災地支援

愛島仮設住宅では震災から5年が経ち、経済的自立が難しい被災者がとどまり続けるケースが多く、全住民が転居するまでには相当な時間を要する状況である。また空室の増加に伴うコミュニティ機能の低下や長期にわたる仮設住宅での生活により健康悪化などの問題も出てきている。

東松島市小松南住宅では、さまざまな地域から転居してきたことで、人と人のつながりが薄く、高齢者の閉じこもりや孤立化が懸念されており、早急に「コミュニティを再構築する必要に迫られている」。

被災地を訪れるボランティア数が

減少しつつある中、これらの住宅に住む方々に対する息の長いボランティア活動に被災地でも高い評価を受けている。笑顔で「絶対また来るね」と言葉が交わされるなど、被災地とボランティアの間には遠い距離を超えた強い「絆」が生まれている。

これからの災害ボランティア活動支援に向けて

災害ボランティアセンターの運営強化に向けて

阪神淡路大震災以降、災害ボランティアへの関心は高まり、全国で相次ぐ災害において市民参加型の救援活動が各地で展開されてきた。救援期の家屋の片付けや避難所支援から、復興期の交流活動や被災者に寄り添う傾聴活動など、ボランティアによるさまざまな支援は、今や被災地の復興に欠かせないものとなっている。その中で、ボランティアの受け入れとコーディネートを行う「災害ボランティアセンター」の設置が定着し、その運営は社協の大きな役割として社会的に認識されるに至っている。

本会では、災害時の現地ボランティアセンターの運営を支援するため、平時から、災害ボランティアを受け入れるためのマニュアルの策定や訓練、県内市町と市町村協の協定締結を促進している。また、災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議を通じて、各団体と災害支援についての情報共有を図るとともに、NPOや地域団体など、多様な団体が災害支援に関わるネットワークづくりを進めている。

災害ボランティアを支える環境づくり

ランテアコーディネーター研修(下記参照)などを通じて、被災者に寄り添ってニーズをしっかりとつかみ、適切なところにつなぐコーディネート力を培っている。

さらに、「ひょうご若者災害ボランティア隊」の拡充をはじめ、高校生や大学生などの若者の育成や、各地域で災害時に活躍できるリーダーの育成に努めている。

の大規模災害の発生が懸念される中で、市町域や県域を超えた長期的なボランティア活動の必要性が想定されている。こうした被災地に駆けつけるボランティアについては、これまでも鉄道や航空会社などの独自の交通費割引や、プラザや各市町村協のボランティアバスの運行といった支援が実施されてきた。

また、これまで鉄道や航空会社などによる災害時の交通費割引が独自に行われてきたが、本会ではこうした取り組みが一層広がるよう、県内の関係団体との協定の締結を進めている。さらに、社会全体で災害ボランティアを支援する仕組みとして、「災害ボランティア割引制度」の創設を国に求める運動を行っている。すでに集まった署名は34万9千人分におよび、12月には国に制度創設等を求める意見書を兵庫県議会が採択した。

今後本会では、被災された方々が孤立せず、明日につながる支援ができる体制づくりを、継続して進めていきたい。

県内避難者への支援活動

本会も参画する「避難サポートひょうご」は、東日本大震災と原発事故により兵庫県内に避難している方々を支援する個人・団体による緩やかなネットワーク組織として、平成24年8月に発足。平成27年9月には避難当事者の方々と交えた交流会を開催するなど、支援活動を続けている。

震災から5年の月日が経過しようとする今でも、震災を契機に兵庫の地で暮らす避難者は、861人を数える(平成27年11月現在)。子育てや住宅、仕事など避難者一人ひとりが抱える課題は多様化し、求められる支援もさまざま。

避難サポートひょうごでは、今後も避難者の声に寄り添いながら、息の長い支援を続けていく。

ホームページ <http://www.hinanyogo.com/>



災害ボランティアコーディネーター養成研修を開催!

11月17日、プラザでは県内市町村協職員等を対象に標記研修を実施した。今年度は災害救援マニュアルの必要性等をテーマとして、過去に被災経験を持つ豊岡市、佐用町および丹波市社協から報告があった。参加者は、「なぜ社協がボランティアセンターを運営するのかを職員全員で共有することが必要」「社協だけで支援するのではなく、多様な団体と協働してそれぞれの強みを生かした支援をすることが大切」など、災害ボランティアセンターの運営の在り方を共有した。

その後の討議では、「即応性、密着性、包括性、寄り添い性という小さな輪の支援に欠かせない要件を社協は全て満たしている」などの意見が交わされ、社協が災害ボランティアセンターを運営する意義があらためて確認された。



このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

ある日、ひろばに参加していたお母さんが、活動途中に子どもを連れて帰ってしまうことが気になりました。声を掛けてみる「うちの子が騒いで迷惑を掛ける」「みんなと同じことができない我が子を見るのがつらい」と訴えられました。安心して子育てをできるようにと始めたひろばでしたが、参加して不安を感じる保護者もいることに気がきました。このことをきっかけに、子育てに不安がある親子限定のひろばを、ボランティアさんを中心に地域の皆さんと始めました。オムツかぶれや発達のこ



ある日のひろばの様子。「ここにいてもいいんだ」と思える場に

練習しました。重ね、内容を話し合いをボランティアさんや学校教員やボランティアさんに向けて学

今まで協働協力していただいた人々との「ご縁」を大切にしていきたいです。また、これから出会う人、団体とも新しい縁を結び、互いの良さ

大切にしたいことは？

取材を終えて
稲村さんも、自身の子育てにおいてボランティアに大きく支えられてきた経験があるそうです。この経験が、一人の声を自分のこと、みんなのこととして受け止め、一緒に取り組むを考えるワーカーとしての活動の根底にあるように感じました。

太子町社会福祉協議会
いなむら さやか
稲村 清香さん

Personal History

- 28歳 ボランティアコーディネーターとして太子町社協入局
- 31歳 まちの子育てひろば担当
- 34歳 災害支援・災害ボランティア担当

太子町は
聖徳太子ゆかりの町です！



TAISHI
Council of Social Welfare

地域を駆ける！
ワーカー物語

心に残るエピソードは？

出生率が高く、高齢化率が低い太子町では、地域の親子が集う「まちの子育てひろば」がいつも盛況で、関わるボランティアさんも意欲的に活動

など1対1でじっくり話せる雰囲気や、子育て経験者からのちょっとした一言、アドバイスが参加者の支えになっているようで、「こんな良い場所があつてよかった」とおっしゃるお母さんの安心した笑顔が印象に残っています。

力を入れたい活動は？

今年8月に「不登校児・生徒の長期休暇中の居場所」を試験的に開

催しました。スクールソーシャルワーカーからの問い合わせをきっかけに、開催に向けて学

「心の和」が循環する町を目指して



地域フォーラムの
開催状況

改めて福祉を考えるきっかけに

丹波市では、10月24日に合併10周年記念事業として「たんば福祉フェスタ」を開催。手話漫才の萬屋手話本舗ぶ〜&み〜企画による公演のほか、各種表彰、ふくし川柳の紹介、福祉バザー、パネル展示など、地域福祉を身近に感じるイベントとなりました。

公演では、聴覚障害者と健聴者による手話と話術を織り交ぜたテンポの良い掛け合いに、会場が笑いに包まれました。また、福祉をテーマに募集した「ふくし川柳」には、児童生徒の部、一般の部合わせて1,700句の心温まる応募をいただき、改めて福祉について考えていただくきっかけとなりました。



ほっとけない!地域づくりを考える

三木市では、11月1日に「みきボランタリーフェスタ」を開催。当日は、ボランティア・市民活動団体によるパネルでの活動紹介や点字体験をはじめ、子どもに人気の凧づくりなど、35のブースが設けられました。

また、同日に開催した「ほっとけない!地域づくりを考える集い」には約90人が参加。神奈川県で活動する「ボランティアグループすずの会」代表の鈴木恵子さんより、「近所の人同士で自宅を開放し行われる井戸端会議やミニデイサービスの実践が報告されました。参加者からは「気になる人への声掛けや少人数の集まりから始めたい」などの感想があり、これからの地域づくりを考える貴重な機会となりました。



「ストップ・ザ・無縁社会」
広がれ!全県キャンペーン
<http://stop-muen.jp>



「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えます。

「笑顔」と「元気」をつなぐつどい

加東市では、10月24日に「第9回かとう福祉まつり」を開催しました。約900人の市民が参加し、保育園児の元気な歌とダンスで開幕。福祉講演会では、傾聴ネットワークまど代表の栗野真造さんに講演いただき、「窓を開けよう!元気が出るつどい〜コミュニケーションが生きる力と楽しさに〜」のテーマ通り、会場の皆さんも互におしゃべりして、笑って、人と人をつなぐコミュニケーションの大切さを体感しました。

また、ステージではボランティアグループの皆さんによる活動発表や、屋外では障害者作業所の手づくり品の販売や、震災以来続けている東北の復興支援を目的とした物産展でにぎわいました。



認知症への理解から始まる福祉のまちづくり

相生市では11月3日、介護者のつどい「あうんの会」と相生市社協が共同で講演会を開催。福祉委員をはじめ、民生委員・児童委員、市民約140人が参加しました。

認知症は誰にでも起こり得る病気として、地域住民がその特性を理解し、偏見をなくしていくことが介護者の負担や当事者の不安の軽減につながります。講義では、「認知症への正しい理解と効果的な予防について」と題して、鳥取大学教授の浦上克哉さんにより、DVDを使って認知症の症状が分かりやすく解説されました。

参加者からは、「認知症のことが理解でき、これからはゆとりを持って接することができそうです」と感想がありました。



これからの社会福祉 法人の方向性は

社会福祉法人制度改革については、社会福祉法改正案の審議が次期通常国会に先送りとなったが、改革は待たなしの状況である。このほど、制度改革をテーマに2つのセミナーが開催され、これからの社会福祉法人の方向性が確認された。

市区町域での 法人連絡協議会を

11月13日、神戸国際会館において「地域公益活動推進セミナー2015」が施設経営法人関係者、社協関係者等111人の参加により開催された。

今回の法改正で法人の責務とされる「地域公益活動」について、県社協および県社会福祉法人経営者協議会（経営協）では、社協と社会福祉施設等が協働して地域福祉を推進する「社会福祉法人連絡協議会」の設立を提唱している。本セミナーは、その推進方策の提案と情報共有の場として開催された。

桃山学院大学副学長の松端克文氏による基調講演と経営協による

「福祉のしごと」イメージ アップ作戦を展開中！

将来の担い手の育成に向けて

福祉サービスを必要とする利用者の増大が見込まれる中、サービスを提供する福祉人材の確保が困難となっている。その要因として、職場環境や給与等の待遇面の低さなどが指摘されているが、「福祉の仕事」の実態が正しく伝えられていないことも大きな要因として挙げられる。そこで、本会福祉人材センターでは、「福祉のしごと」のイメージアップ作戦としてさまざまな事業に取り組んでいる。

福祉人材の確保には、将来の担い手の育成という視点が欠かせない。センターでは、実際に福祉施設等の仕事を体験できる「福祉体験学習事業」に加え、新たに「福祉のしごと職場見学ツアー」を企画しており、各地域で順次実施していく予定だ。



実際に福祉の職場で働く先輩の声を紹介！



地域公益活動推進セミナー2015(11月13日)



近畿ブロックセミナー兵庫大会(12月7日)

報告では、連絡協議会設立の意義の共有が図られた。続くパネルディスカッションでは、丹波市・神戸市垂水区・佐用町の各社会福祉法人連絡協議会から、設立までの経過と今後の事業展開課題などの報告があり、設立の手順や社協の役割今後の方向性等について意見交換が行われた。

切り拓こう！ 社会福祉法人の未来

12月7日には、「社会福祉法人経営者協議会近畿ブロックセミナー」兵庫大会が、ANAクラウンプラザホテル神戸において、関係者等215

学生等への広報を強化！

また、学生をはじめとした若者に対して「福祉の仕事」の広報・周知を図ることも新たに着手している。11月には、民間の就職情報会社が発行する情報誌に、施設職員のインタビュー等を含む福祉の仕事に関する特集記事を掲載した写真(。さらに、若者の情報収集の手段として使われるフェイスブックの専用ページを開設し、定期的な情報発信を行っている。

また、就職活動を控える大学3年生等を主な対象とした「福祉のしごと」就活応援セミナー(2月4日)を開催し、福祉の仕事の将来性や成長性を知ってもらうとともに、施設の若手職員とのトークセッションも予定している。

センターでは、今後も福祉の仕事の魅力や伝え、福祉業界のイメージアップにつながる取り組みを進めることにより、福祉人材の確保に努めていきたい。



福祉人材センター Facebookはじめました!

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

共に生きる豊かな社会を

一般財団法人 兵庫県肢体不自由児者協会

当協会は、手足の不自由な人たちの社会参加・自立等の支援の活動を主な事業内容として諸活動を展開しています。

- 「手足の不自由な子どもを育てる運動」絵はがき等頒布
- 交流会(地域交流会・会員交流会) ●愛と友情の旅 ●肢体不自由高校生への奨学金の給付
- 肢体不自由児者の心理療育キャンプ等への事業支援
- 肢体不自由児者美術展の開催 ●青年グループ会員への活動支援 ●会報(年2回)の発行

当協会の福祉活動を充実させるため、多くの方々にご理解やご協力を得たいと考え、ホームページ上で「クリック募金」を展開しています。応援していただいている11の協賛企業バナーをクリックすることに10円、あなたに代わって協賛企業の皆さんが募金をしてください。

当協会の活動をホームページでご覧いただくとともに、クリック募金にご協力ください。

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

問い合わせ
兵庫県社協 総務企画部 TEL 078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

こんな取り組みをしています！

平成27年度兵庫県肢体不自由児者美術展

今年も兵庫県内の肢体不自由児・者が懸命に制作した美術作品を展示します。手足の不自由な人たちが、時間をかけて一生懸命仕上げた作品です。ぜひご来場、ご観覧いただき、頑張っている姿を感じ取ってください。

期日 平成28年2月2日(火)～7日(日)11時～18時(最終日は16時まで)
会場 ギャラリーミウラ(神戸市中央区中山手通1-8-19 三浦ビル1階)

連絡先

一般財団法人 兵庫県肢体不自由児者協会
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2-1-1 県福祉センター 6階
TEL 078-241-9907 FAX 078-241-9908
E-mail hyoshikyo@nifty.com
URL http://homepage2.nifty.com/hyoshikyo/



寄付・寄贈のお礼

11月26日、関西遊技機商業協同組合から、社会貢献活動の一環として車椅子8台が寄贈された。平成24年度から毎年寄贈いただいております。今回で4回目、累計32台となりました。

11月30日、神戸元町ミュージックウィーク実行委員会から本会へ30万688円が預託され、本会武田会長から感謝状を贈呈した。寄付金は、同実行委員会が主催する10月3日～4日のチャリティコンサート等における東日本大震災被災地支援のための募金活動によるもの。平成23年度から5回目となる。今後、宮城県、沼市社協へ寄付を行う予定である。



人の参加により開催された。セミナーでは、全国経営協会長の磯崎格氏や厚生労働省社会福祉法人制度改革担当室長の田中徹氏により、制度改革の動向と社会福祉法人としての対応課題などが報告された。

当日は、同組合副理事長の荒谷博文氏より目録が手渡され、本会武田会長から感謝状を贈呈した。車椅子は、本会を通じて、三木市、高砂市、赤穂市、豊岡市の各社協に寄贈を行った。



助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

公益財団法人さわやか福祉財団
連合・愛のキャンパ助成

地域の助け合い活動の団体立ち上げや、新規事業の開始を支援するために助成します。

対象 平成26年11月1日以降に新たに立ち上がった団体。既存の団体の場合は、従来の活動に加えて新たに事業を開始したところ

助成額 1件あたり上限15万円(約23団体を予定)
締切り 平成28年1月15日(金) 必着

☎☎公益財団法人さわやか福祉財団
TEL 03-5470-7751

URL <http://www.sawayakazaidan.or.jp/>

一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
第17回社会貢献基金助成

社会貢献活動を行う団体や社会貢献に資する調査・研究を目的とした事業に助成します。

対象団体 非営利組織(財団法人、社団法人、社会福祉法人、NPO法人、その他任意団体、市民ボランティアグループ)、大学、研究機関(個人も可)

対象事業 研究助成事業、高齢者福祉事業、障害者福祉事業、児童福祉事業、環境・文化財保全事業、国際協力・交流事業

助成額 1件あたり上限200万円(総額1,000万円)
締切り 平成28年2月29日(月) 必着

☎☎一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
TEL 03-3596-0061

URL <http://www.zengokyo.or.jp/>

公益財団法人杉浦記念財団
第5回杉浦地域医療振興助成

医療従事者および介護福祉従事者等の多職種が連携して、「地域包括ケア」を実現しようとする活動や研究に助成します。

対象 「地域医療連携」を実践し、またこれから実践しようとする活動

助成額 1件あたり上限300万円(総額2,000万円)
締切り 平成28年2月29日(月)

☎☎公益財団法人杉浦記念財団
TEL 0566-72-3007

URL <http://sugi-zaidan.jp/>

募集

第17回北川奨励賞

難病や障害を持つ子どもやその家族に対して、

支援している個人・団体を募集します。

対象 社会医学的な実践、セルフヘルプ活動、またはボランティア活動を進めている個人・グループ

贈呈額 1件あたり上限50万円(総額200万円)
締切り 平成28年1月15日(金) 必着

☎☎特定非営利活動法人コーポレートガバナンス協会 TEL 045-263-6965

URL <http://www.teamcg.or.jp/>

平成27年度糸賀一雄記念未来賞

障害者やその家族が安心して生活できる福祉社会の実現に寄与することを目的に、賞を授与します。

対象 国内で活動し、福祉、教育、医療、労働、経済、文化・スポーツなどの分野における障害者または障害者と同様に社会的障壁による生きづらさを抱えた人に対する取り組み

賞 賞状、副賞10万円(2名(団体)以内)

締切り 平成28年1月20日(水) 必着
☎☎公益財団法人糸賀一雄記念財団

TEL 077-567-1707

URL <http://www.itogazaidan.jp/>

研修・イベント

1.17ひょうごメモリアルウォーク2016
参加者募集

阪神・淡路大震災時を思い起こしながら、ゴールとなるHAT神戸・なぎさ公園で開催される「1.17のつどい」に参加しませんか。

日程 平成28年1月17日(日)

内容 一般ウォーク、子ども(親子)ウォーク、1.17のつどい、交流ひろば・ステージ、防災訓練

締切り 平成28年1月8日(金)

☎☎ひょうご安全の日推進県民会議事務局
TEL 078-362-9984

URL <http://19950117hyogo.jp/>

ひょうごヒューマンケアカレッジ
災害ボランティアこころのケア講座

被災地での支援活動の実態を知り、災害ボランティアとしてのこころに寄り添う支援について考えます。

日時 平成28年2月10日(水)、2月25日(木)、2月26日(金)

会場 兵庫県こころのケアセンター

受講料 3,000円

締切り 平成28年1月15日(金)17時必着

☎☎公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫県こころのケアセンター
TEL 078-200-3010

URL <http://www.j-hits.org/>

行事予定

- | | | |
|----|---------|---|
| 1月 | 6日 | 避難サポートひょうご 新春懇親会◆コープこうべ健保会館 |
| | 8日・12日 | 県地域包括・在宅介護支援センター協議会 現任研修会◆じばさんびる(姫路市)、県福祉センター |
| | 9日 | 平成28年新年福祉のつどい◆ANAクラウンプラザホテル神戸 |
| | 12日・26日 | 職場内研修担当者研修(Aコース)◆県社会福祉研修所 |
| | 13日~ | 介護支援専門員 実務研修◆県社会福祉研修所ほか |
| | 13日・19日 | 社会福祉援助基礎研修 Bコース◆県社会福祉研修所 |
| | 14日・15日 | 接遇・日常マナーリーダー研修◆県社会福祉研修所 |
| | 14日・28日 | 相談面接技術研修 中級Cコース◆関西学院大学 |
| | 16日 | 東日本大震災復興支援フォーラム◆神戸クリスタルタワー |
| | 18日 | 栄養士・調理師研修◆県社会福祉研修所 |
| | 19日 | NPOと行政の協働会議(阪神南)◆西宮市交流センター |
| | 21日 | 福祉サービス利用援助事業専門員・担当者研修会◆じばさんびる(姫路市) |
| | 23日 | 若年性認知症支援担当者研修◆県農業会館 |
| | 26日 | 県ホームヘルプ事業者協議会サービス提供責任者現任研修◆県福祉センター |
| | 27日 | 前頭側頭型認知症の家族交流会◆県福祉センター |
| | 28日 | 福祉サービス利用援助事業専門員・担当者研修会◆県福祉センター |
| | 31日 | 若年性認知症啓発フォーラム◆加東市東条文化会館 |
| 2月 | 1日 | 社会福祉法人 監事研修◆県中央労働センター |
| | 2日・16日 | 職場内研修担当者研修(Bコース)◆県社会福祉研修所 |
| | 10日 | 若年性認知症家族介護者連絡会◆県福祉センター |
| | 12日・13日 | 介護支援専門員 施設職員版研修Aコース◆県社会福祉研修所 |

基本保育シリーズ

公益財団法人 児童育成協会 = 監修

全 20 巻

- B5判/2色刷
- セット定価: 44,280円(本体41,000円+税8%)
- 2015年7月より順次刊行 ISBN978-4-8058-5200-2

保育士養成カリキュラムの目標と内容をふまえ、保育士として必要な知識と技術を網羅しました。今後さまざまな現場での活躍が期待される保育士の養成とさらなる質の向上に貢献するため、保育士養成カリキュラムに準拠した、養成校で使える新たなテキストです。



中央法規
Chuohokai Publishing Co., Ltd.

大阪営業所
〒530-0041 大阪市北区天神橋 4-8-12
TEL.06-6351-9079/FAX.06-6355-3447

兵庫県の地域福祉情報誌

ひょうごの福祉

新規購読者募集!



●人も地域も元気に! 地域の夢とアイデアが詰まった“ご当地福祉”を紹介します!

毎月発行・年間購読料 1,500円(送料別)

「ひょうごの福祉」に掲載する広告も募集しています!!
(発行部数18,000部)

申し込み・問い合わせ 兵庫県社協 総務企画部 TEL 078-242-4633